



TNFD自然関連リスクと 機会管理・情報開示 フレームワーク



ベータ版v0.1リリース



エグゼクティブサマリー

市場参加者との協議
のためのプロトタイプ

2022年3月

エグゼクティブサマリー

自然関連リスクと機会の管理が重要である理由

世界の経済生産の半分以上である44兆米ドルの経済価値の創出が、高度または中程度に自然に依存しています。しかし現在、ほとんどの企業、投資家、貸手は、意思決定において、自然関連リスクと機会を十分に考慮していないのが現状です。自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) は、財務やビジネス面での意思決定において自然を考慮する必要性への認識が高まっていることを受けて設立されました。

TNFDの目標は、常に変化する自然関連リスクを組織が報告し行動を起こせるようにするためのリスク管理と情報開示に関するフレームワークを開発し提供することを使命とする、グローバルで市場主導型のイニシアチブです。世界の金融の流れを自然にとってマイナスの結果から自然にとってプラスの結果へとシフトさせるようサポートすることを究極の目的と考えています。あらゆる規模の企業や金融機関がTNFDフレームワークをグローバルに利用することを想定しています。

TNFDフレームワーク開発へのアプローチ

タスクフォースは、科学、基準、データ、テクノロジー、金融、ビジネス、政策、規制などのナレッジパートナーから構成されるグローバルネットワークが提供する専門知識を活用し、市場参加者とのイノベーションに対するオープンなアプローチを通じてTNFDフレームワークを開発しています。

本書および付属のオンラインポータルは、TNFDフレームワークのベータ版 (v0.1) であり、TNFDと市場参加者との間での協議とパイロットテストの開始を意味します。このフィードバックとテストの手法は、2022年と2023年にかけてリリースされるその後のベータ版に反映され、最終的な提言は2023年後半にタスクフォースによって発表されます。

タスクフォースは**オンラインプラットフォーム**を通じて市場参加者からのフィードバックを募集しています。このオープンイノベーションのアプローチにより、TNFDは、最終的な提言が必ず科学的根拠に基づき、かつ世界中の市場参加者が実践できるものであるようにし、それにより財務上およびビジネス上の意思決定で自然を考慮するアプローチを前進させることを目指しています。



図1: TNFDフレームワークのベータ版リリーススケジュール

市場参加者は、持続可能性報告に関する新しい世界的な基準と一致する自然関連リスク管理フレームワークの必要性を明確に唱えてきました。このためTNFDは、気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) のアプローチを基に、国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) が現在開発中のサステナビリティ基準のためのグローバルな基準と整合させ、開示を希望するあるいは開示を求められる者はグローバルな基準を超える重要度基準で報告できる柔軟性を備えたものの構築を目指しました。

TNFDフレームワークの第一次ベータ版の概要

TNFDフレームワークは、投資家、アナリスト、企業経営者や取締役、規制当局、証券取引所、会計事務所など、様々な市場参加者に関係がある自然関連リスクと機会に関する提案とガイダンスを提供することを目指しています。

このフレームワークは、市場で利用可能で、科学に基づき、目的志向で、統合されておりかつ適合性があり、グローバルに包括的で、自然関連リスクに対する完全なアプローチを取り込み、気候および自然関連リスクに対する統合的アプローチを採用するというTNFD原則に従って策定されています。

TNFDフレームワークの最初のベータ版には、次の3つのコア要素が含まれています。

- A.** TNFDが市場参加者に自然関連リスクと機会を評価し開示する際に用いることを推奨する、自然を理解するための基本的な概念と定義の概要
- B.** 自然関連リスクと機会に対するTNFDの草稿版開示提案
- C.** 企業や金融機関が自然関連リスクと機会の評価を行い、企業戦略やリスク管理プロセスに組み入れ、報告や開示に関するものを含め、企業や資本配分に関する様々な判断に役立てるためのガイダンス

フレームワークの今後のベータ版では追加項目が入る予定です(下図参照)。

TNFDフレームワーク - ベータ版リリース v0.1

自然を理解するための基本

情報開示に関するTNFDの提言(草稿版)

自然関連リスクと機会を評価するためのLEAPプロセス

自然関連データに関する状況評価と提言

FAQ
内容 | 継続的に評価していること

図2: TNFDフレームワークのコアとなる要素

A. 自然を理解するための基本的概念と定義

TNFDの自然を理解するための基本的概念と定義は、最も権威ある、科学とコンセンサスに基づいた既存の定義に基づいています。TNFDは、市場参加者が自然関連リスクと機会を評価、管理、開示する際に、これらの構成要素と言語体系を使用することを推奨しています。

自然に関するTNFDの定義

TNFDは、自然は4つの領域(陸、海、淡水、大気)で構成されると定義しています。これらの領域は、組織や人々がどのように**自然資本**に依存し、またそれに影響を与えているかを理解するためのエントリーポイントとなるもので、TNFDは自然資源を、組み合わせさせて人々に利益の流れをもたらすものと定義しています。金融の世界に資産が存在し、その資産が収益の流れを生み出すのと同様に、自然界も環境資産というストックで構成され、その資産が人々や経済に関連した利益の流れを生み出しているのです。

TNFDは**環境資産**を、例えば、森林、湿地、サンゴ礁、農地など、地球に自然に存在する生物と非生物の構成要素と定義しています。生態系はこれらの資産の重要な一部であり、TNFDは生態系を、植物、動物、微生物が互いに、また非生物環境と相互作用する動的複合体と定義しています。これらは、生態系サービスの提供を支え、ビジネスに便益(最終的に人々や社会が利用する財やサービス)をもたらします。**生物多様性**は、生態系資産の質、回復力、量を維持しビジネスと社会が依存する生態系サービスを提供するうえで不可欠な、自然に関する特性です。

依存関係と影響に関するTNFDの定義

TNFDは、組織がビジネスプロセスを機能させるうえで依存している生態系サービス（清潔で定期的な水の供給など）を**依存関係**と定義しています。また組織は、環境資産や生態系サービスに対して、プラスにもマイナスにもなる**影響**を与えます。自然に対する短期的な影響は、環境資産の質と回復力に変化をもたらし、その結果、依存関係により、組織に中長期的なリスクが生じます。つまり、現在の自然への影響は、将来の**自然関連リスク**と機会を生み出す可能性があるのです。

自然関連リスクと機会に関するTNFDの定義

TNFDは、自然関連リスクを、組織や他の組織による自然への依存関係や自然への影響に関連して組織にもたらされる潜在的脅威と定義しています。これらは、物理的リスク、移行リスク、システムックリスクから派生する場合があります。TNFDの自然関連リスクの定義には、（現在重視されている）短期的な金融リスクに加え、自然への依存関係や自然への影響によってもたらされる長期的なリスクも含まれています。

このように、複数の期間にわたる依存関係や影響が複雑に絡み合うことで、収益やキャッシュフローの脆弱性が生じ、それが市場リスク、信用リスク、流動性リスクなど、より広範な金融リスクへと波及する可能性があるのです。ガバナンス、戦略、リスク管理などを通じて、これらの問題を管理するための組織の行動が、財務的な機会を生み出す可能性があります。これらの問題に対処できない場合、資産の評価切り下げ、サプライチェーンの回復力、風評や営業許可、需要の変化などに関連するリスクが発生するおそれがあります。企業にとってのこのようなリスクと機会は、金融機関にとっての金融リスクとなります。

TNFDフレームワークでは、自然関連リスクだけでなく、**自然関連機会**も中心的に取り上げられています。TNFDは、自然関連機会を、自然への影響を回避または軽減したり、自然の回復に貢献したりすることによって、組織と自然にとってプラスの結果を生み出す活動と定義しています。自然関連機会は、i) 組織が自然資本と生態系サービスを喪失するリスクを軽減する場合、および、ii) 自然に基づく解決策の実施（または資金調達や保険による支援）を含め、自然の喪失を食い止める、または逆転させることに積極的に取り組むビジネスモデル、製品、サービス、投資の戦略的転換を通じて生じる可能性があります。

B. 情報開示に関するTNFDの提言(草稿版)

サステナビリティ報告に対する一貫した統合的なアプローチを求める市場参加者の明確な声に応え、情報開示に関するTNFDの提言(草稿版)は、TCFDが既に提案した内容に基づいています。これらは、情報開示に関するTCFDの4つの柱であるガバナンス、戦略、リスク管理、指標と目標に沿っています。

TNFDが提言する開示をTCFDが提言する開示と密接に整合させることにより、TNFDは統合的な開示に向けた動きを促進・奨励することを意図しています。

また、提言案では、開示の根拠となるべき一般的な要件として、次の4つの項目を挙げています。

- 自然に関する依存関係や自然の影響についての評価
- ロケーションの検討
- 自然関連リスクと機会の評価および管理に関する能力の検討
- 開示の範囲と今後の開示で扱われる内容についての記述。

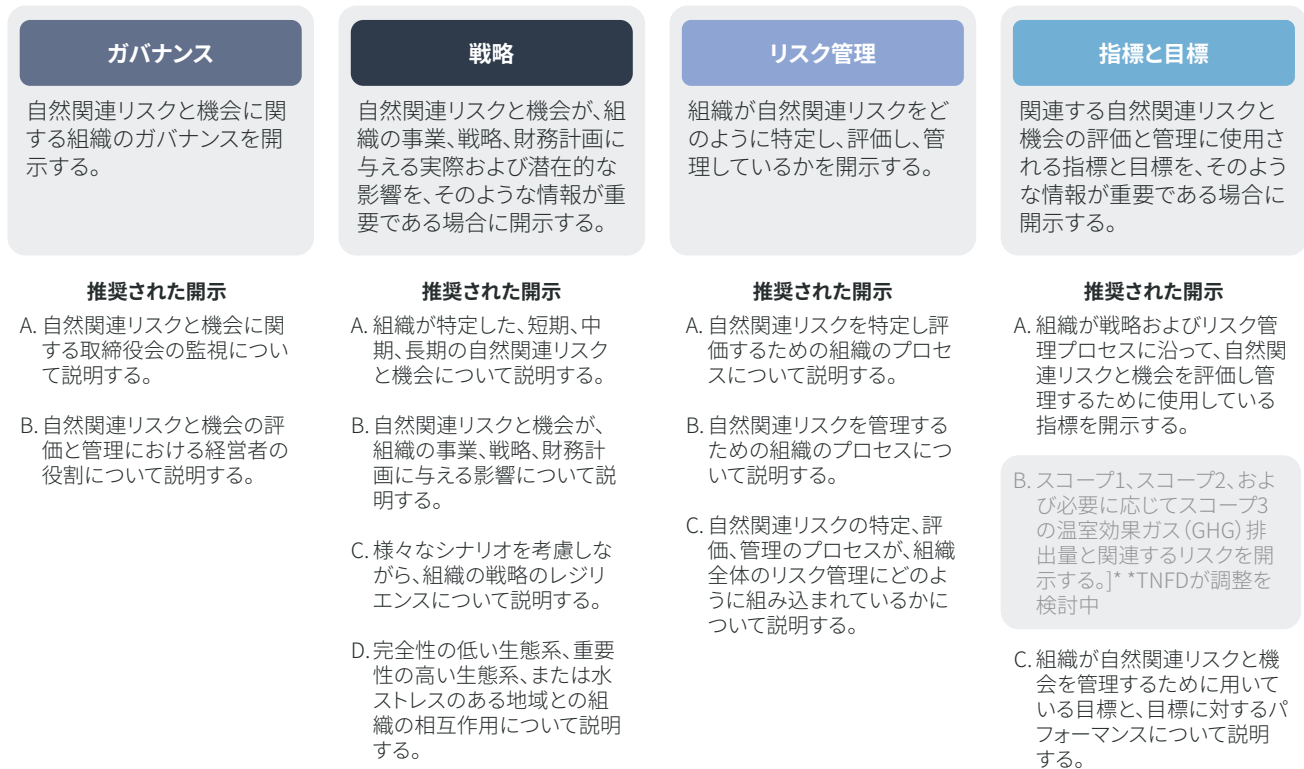


図3: 情報開示に関するTNFDの提言(草稿版)

C. 自然関連リスクと機会の評価アプローチ – LEAPの導入

より多くの組織が自然への配慮を企業やポートフォリオのリスク管理プロセスに組み込めるようにするには、実践的なガイダンスが有用だろうという市場参加者からのフィードバックに基づき、TNFDはLEAP (Locate, Evaluate, Assess, Prepare: 発見、診断、評価、準備) と呼ばれる自然関連リスクと機会に関する統合評価プロセスの最初のバージョンを策定しました。

LEAPアプローチは、企業や金融機関が社内で自然関連リスクと機会を評価できるようにするための任意のガイダンスです。このガイダンスを採用することで、情報開示に関するTNFDの提言(草稿版)に沿った戦略、ガバナンス、資本配分、リスク管理の意思決定(開示の決定を含む)が可能になります。

LEAPアプローチは、次の4つの中核的な分析アクティビティのフェーズから構成されています。

- 自然との接点を**発見**する
- 依存関係と影響を**診断**する
- リスクと機会を**評価**する
- 自然関連リスクと機会に対応する**準備**を行い、投資家に報告する

LEAPアプローチに関するこの最初のプロトタイプ的主要な対象者は、財務報告書の作成者と利用者(投資家、債権者、保険会社など)、そしてリスク管理チームやオペレーションチームです。LEAPは、上場企業、非上場企業、多国籍企業、中小企業などの様々な企業が、自然関連の依存関係や自然の影響を理解することを通じて、自然関連リスクと機会について、科学的根拠に基づいた体系的かつ段階的な評価を実施できるよう設計されています。

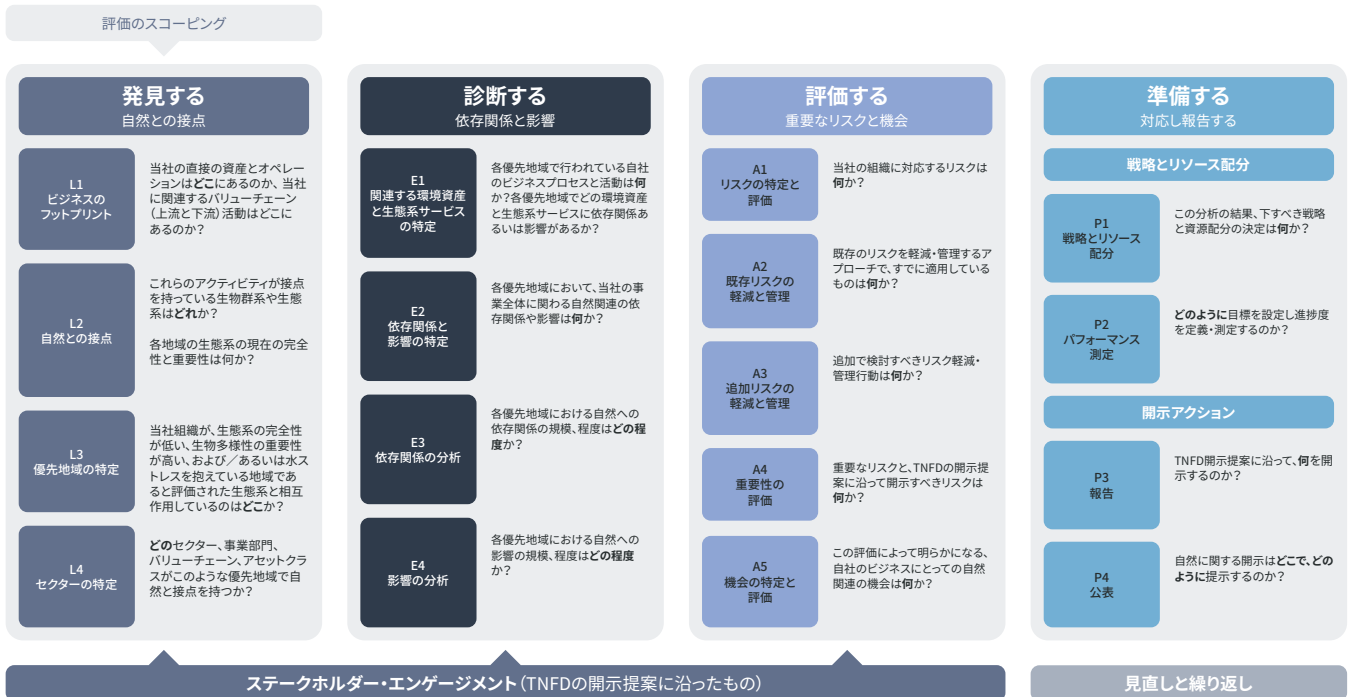


図4: LEAPアプローチ

TNFDは、組織によっては既に独自の評価プロセスを採用している場合もあり、LEAPで概説されたものと全く同じ段階的なプロセスで自然関連リスクと機会を検討していない可能性もあると認識しています。LEAPアプローチは、自然に関連した依存関係と影響への理解に基づき、自然関連リスクと機会を着実に評価するために、TNFDが実施する必要があると考える個別の分析的要素に基づいて構築されています。LEAPアプローチは任意のガイダンスですが、TNFDは、アナリストや作成者が使用する同様のアプローチでは、同じ構成要素と検討事項を含めることが極めて重要であると考えています。

また、TNFDは、金融機関の種類、アセットクラスや金融商品の種類、セクター、地域、投資テーマなどに応じて、分析の範囲や種類が異なることについても認識しています。フレームワークの最初のベータ版では、LEAPアプローチの金融機関向けの1つのバージョンの概要が、今後開発し詳細を固めていくたたき台として示されています。タスクフォースは、TNFDが金融セクター向けにLEAPの開発を継続する中で、金融機関からのフィードバックを募集しています。

今後のフレームワーク開発における優先分野

タスクフォースによって更に活動が進められ、今後リリースされるバージョンに含まれるものもあります。例として、気候との関連や気候との複雑な相互関係（気候変動と自然環境の統合）、シナリオ策定、開示範囲、社会的側面、ネイチャー・ポジティブの定義、データと指標、セクター固有のガイダンスなどが挙げられます。

エンゲージメント – TNFDフレームワークの共同作成

企業や金融機関にとって、自然関連リスクと機会は、より広範なリスク管理や評価の計算の一部となる必要があります。TNFDは、市場関係者、政策立案者、規制当局、科学者、その他のステークホルダーに対し、**TNFDのインタラクティブなオンラインプラットフォーム**上でこのTNFDフレームワークの最初のベータ版をテストし、フィードバックを提供するよう呼びかけています。



Taskforce on Nature-related
Financial Disclosures